

告 辞

本格的な春の到来を感じるようになった本日ここに、佛教大学通学課程、第53回大学院学位記、第69回学部卒業証書授与式並びに、第43回別科〈仏教専修〉修了証書授与式を挙げて行うことは大きな喜びであります。本来であれば、全学の卒業生・修了生の皆さんが一堂に会して、盛大にお祝いするところではありますが、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、人数・時間帯を区切って執り行うこととなりました。卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了、本当におめでとうございませう。佛教大学関係者一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんが、今日この喜びの日を迎えることが出来たのは、もちろん一人一人の努力の賜物ではありますが、あわせて、皆さんを支え、温かく見守ってこられたご家族、保護者の皆様、友人の方々などの支援あつてのことです。ご家族はじめ関係の皆様には、今日までのご苦勞に敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業・修了される皆さんは、大学院、学部、別科といった課程の違いや、専攻、学科など、学ばれた専門領域にそれぞれ違いはありますが、この佛教大学で所定の期間を過ごされたわけです。その間に、本学の建学の理念である仏教精神に基づいて、また法然上人の心をいただいた大学として展開・提供されている教育によって、人間として生きてゆくための智慧と慈悲をしっかりと身につけていただいたものと信じます。

教育学部の皆さんは、仏教の「時機相応」つまり、時代に生きる人に相応しく教えることによって未来の人間を育てる力をつけていただいたことでしょう。それは、きっと家庭教育の場でも、教育現場においても、また社会教育の場においても活かされるであろうと思います。

社会学部の皆さんは、人間と人間との関わり、つまり縁によって織りなされる社会を、広い視野で観察し、その仕組みを捉え研究する力を培い、在るべき社会を思考する姿勢を身につけていただいたと思います。

ここに仏教によって教えられている人生の道標をお伝えしておきたいと思ひます。それは「思いが言葉となり、言葉が考えとなり、考えがアイデアとなり、アイデアが行為となり、行為が人格を作り、人格が人生を作る」ということです。思いが言葉や行動として現されて初めて価値づけられることとなるのです。とくに、思考から行為への転換が、本学の教育の基本である「転識得智(学んだ知識を生きる力へ)」なのであります。そして、これこそが本学において皆さんに修得していただいた智慧なのであります。

思えば、近年、大きな災害が頻発し、多くの尊い命を失うとともに荒廢した地域がたくさんあります。人間の智慧と慈悲と和の力によって徐々に復興されてきておりますが、

まだまだ道半ばであります。わたしたちは、あの大変な災害を風化させることなく、教訓として活かしていかなければならないでしょう。また、その後も各地で自然災害や人災などが頻発しています。さらに世界に目を向けますと、各地で紛争も続いています。このような社会、世界の現状を認識し、今回のような病魔の危機に対応できる力、危機をのりこえ、希望を持って前に進むことのできる智慧と勇気を持たねばなりません。

これからが皆さんの人生の本ステージです。ここから自分自身の物語を作っていくことが大切です。なぜなら、人間は自分の心ひとつで自分の人生を築いてゆけるからです。

佛教大学で学ばれ、身につけられたすべての力を存分に発揮され、移り変わる環境の中に、自分自身をしっかりと見つめ、人々と共に生き、人々の為に活動し、素晴らしい人生を送られるとともに、社会で自分を活かし、活躍されることを祈念いたします。

本日をもって、皆さんは、大学での学びを終え、それぞれの立場で、新しい歩みを開始されることとなりますが、人生航路の中では、時には行く手を遮られ、立ち止まって考えなければならないことに出会うかもしれません。そんな時には、いつでも母校である本学においでください。皆さんと佛教大学との御縁は途切れることはありません。私たちはいつでも、皆さんの再訪をお待ちしております。

あらためて皆さんの卒業・修了を心からお祝いし、告辞といたします。

令和3年3月18日

佛教
大学長
田 中 典 彦